
1. 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応

■ 1-1 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応



第12回検討会の課題とその対応を示す。

課題	対応
課題① 環境保全対策の一般向け資料の作成	<ul style="list-style-type: none">環境保全対策について、今後、一般向けの分かりやすい資料を作成し、HPで公表することとする。
課題② 架設桁の撤去に伴う浚渫工事の詳細	<ul style="list-style-type: none">現時点で橋桁上に架設桁が設置されており、今後撤去が必要となる。その撤去方法と浚渫工事について説明する。 <p>⇒詳細は、「架設桁の撤去方法について」の報告時に説明</p>
課題③ 総合的な報告書の作成方針を検討する。	<ul style="list-style-type: none">鳥類調査の事後調査は、橋桁が完了してから2年間、鳥類調査以外の事後調査は橋脚が完成してから2年間実施する。検討会は令和4年10月頃、令和5年10月頃、令和6年10月頃の残り3回を予定している。そこで、調査の終了を見据えて総合的な報告書の作成を今後進めていくこととする。 <p>⇒詳細は、「最終とりまとめの方針について」の報告時に説明</p>

■ 1-2 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応



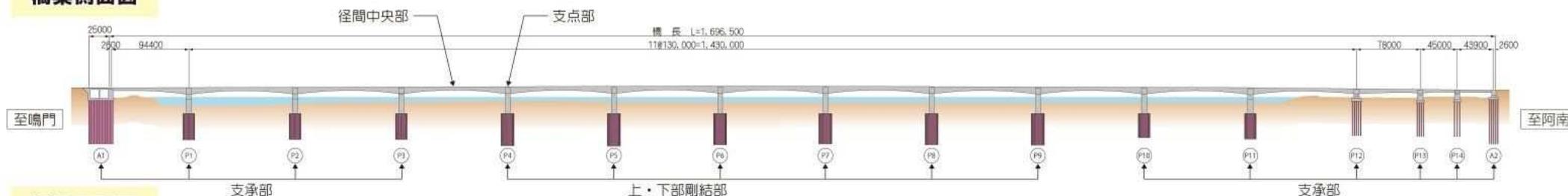
第13回検討会の課題とその対応を示す。

課題	対応
<p>課題① 排水側溝の手すりの取り付け方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第13回検討会では、排水側溝の手すりが外側に取り付けているデザインとしていたが、内側に取り付けるデザインに変更した。
<p>課題② A2検査路のデザインの検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> A2周辺の検査路について、住民意見を参考に植樹は行わず、検査路の手すりをコンクリート色に併せることで構造物及び盛土と一体感を持たせ、異物感を減少させた。検査路をのり尻まで設置することで今後の維持管理もしやすい（橋梁へのアクセスがしやすい）構造とした。
<p>課題② 通信管路の伸縮装置のデザインの検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通信管路の伸縮装置について、第13回検討会ではケーブルが垂れ下がっている計画に対し景観に配慮したデザインの検討の意見があった。 通信管路（伸縮部）については、大規模地震時に通信線が切断する事象があり、通信線の余長を地震時の移動量にも対応した形状とする必要があるため前回の案のままの形状とした。 外付けの通信管路ではなく、壁高欄箱抜きによる設置計画を検討 <ul style="list-style-type: none"> →通信管路余長を含んだ形状とすると、壁高欄の断面欠損が大きくなる。 →断面欠損に対する車両衝突対策を実施すると、大型の鉄板を設置する必要があるが、重量物となり、点検等今後の維持管理を行う上で不適合であると判断 <p>⇒上記を踏まえて、外付けの通信管路形状とする。</p>

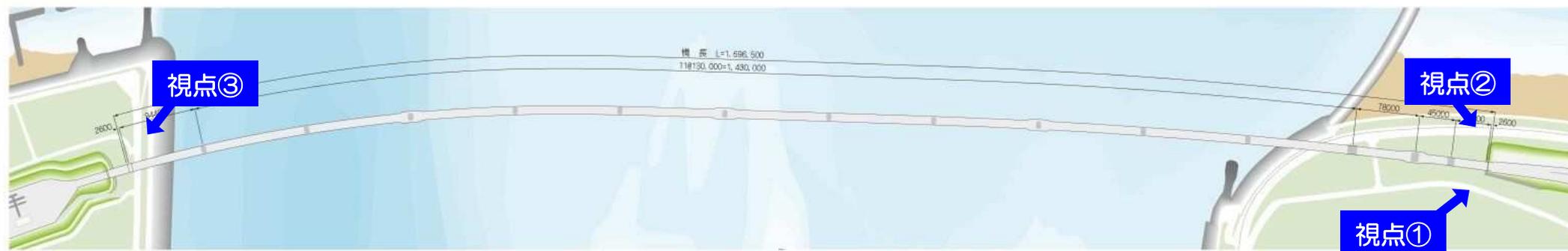
1-3 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応



橋梁側面図



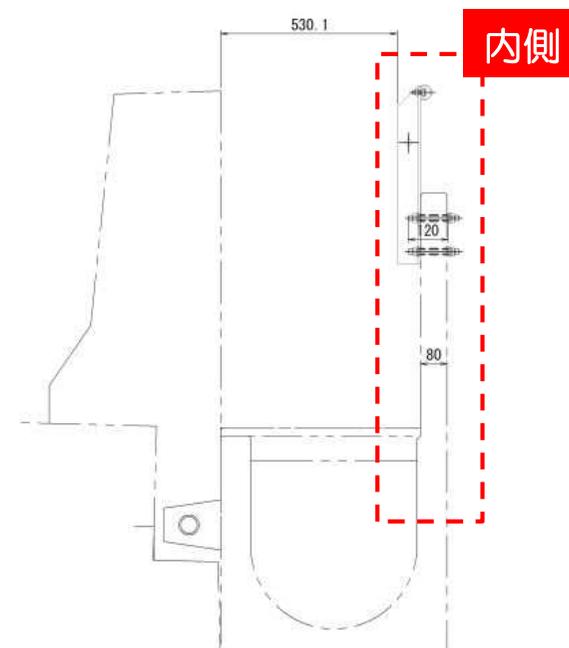
橋梁平面図



■ 1-4 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応



排水側溝の手すりについては外側から内側に設置するように変更した。



(図) 断面図



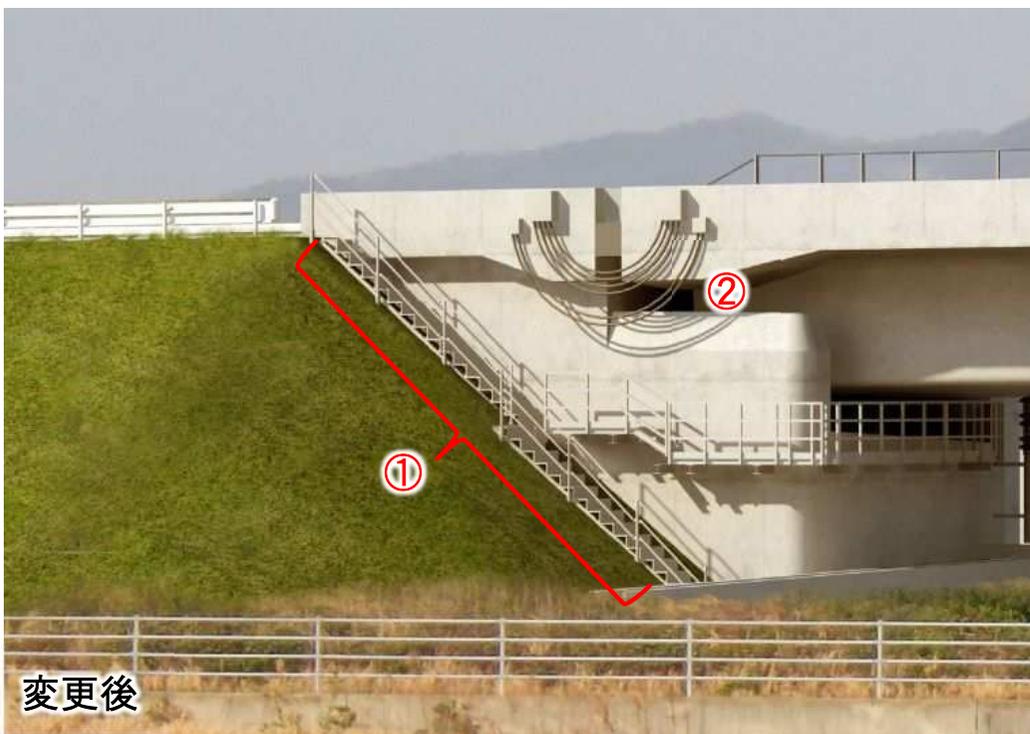
■ 1-5 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応



A1・A2側のデザインについては以下のように変更した。



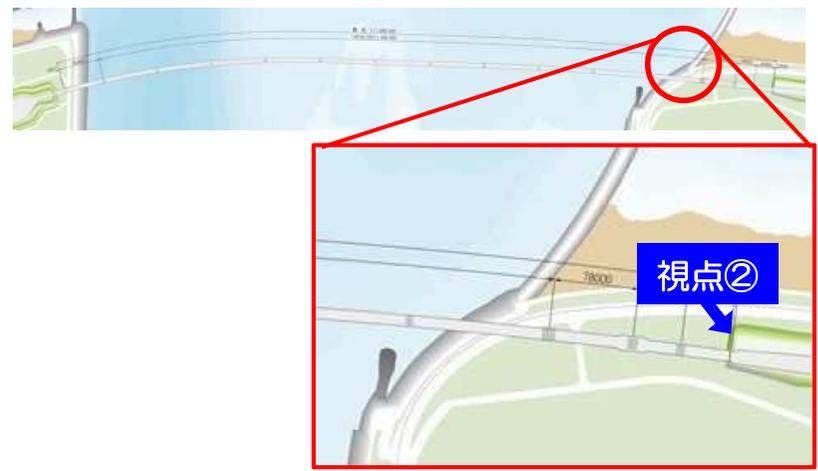
第12回検討会時点



変更後

A2橋台部の景観検討内容

- ① 住民意見を参考に植樹は行わず、検査路の手すりをコンクリート色に併せることで構造物及び盛土と一体感を持たせ、異物感を減少させた。
(手すりは点検者の安全確保のため設置する方針とした)
検査路をのり尻まで設置することで今後の維持管理もしやすい構造とした。
(住民意見)
 - ・海に向けた見通しも悪くなる
 - ・植樹をすると維持管理(落ち葉の清掃等)が必要となる
- ② 通信管路(伸縮部)については、大規模地震時に通信線が切断する事象があり、通信線の余長を地震時の移動量にも対応した形状とする必要があるため前回の案のままの形状とした。(次項参照)



■ 1-6 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応



検査路のデザインについては**配色**を現在検討中である。

手すり・歩廊 白色



手すり・歩廊 黒色



手すり 黒色・歩廊 白色



■ 1-7 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応



検査路のデザインについては配色を現在検討中である。

手すり・歩廊 白色



手すり・歩廊 黒色



■1-8 第12回検討会・第13回検討会の課題への対応



通信管路（伸縮部）のデザインは以下のようにした。

通信管路（伸縮部）の景観検討内容

前回提示した外付けの通信管路ではなく、**壁高欄箱抜きによる設置計画**を検討

→通信管路余長を含んだ形状とすると、**壁高欄の断面欠損が大きくなる。**

→断面欠損に対する車両衝突対策を実施すると、大型の鉄板を設置する必要があるが、重量物となり、点検等今後の維持管理を行う上で不適合であると判断

⇒上記を踏まえて、**外付けの通信管路形状**とする。

※プルボックスの色は、コンクリート色に合わせることで一体感を持たせるよう配慮。

※ただし、ケーブル保護管に関しては、塗装をすると保護管自体の伸縮により塗装が剥がれる可能性があるため、塗装は行わない。

